

第29回

# ごはん・お米と わたし

作文・図画コンクール入賞作品集



最上町立富沢小学校2年 笠原 錬くん



山形市立金井中学校2年 高島 絵理さん



朝日村立朝日小学校5年 難波 沙英さん

平成17年2月

山形県農業協同組合中央会  
山形県農協農政対策本部



## ごあいさつ

### 山形県農業協同組合中央会

#### 会長 遠藤芳雄

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールに応募いただいた皆さんに、心からお礼申し上げます。

また、入賞された皆さん、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

第二十九回目を迎えた今回は、県内の小・中学校から作文三三六点、図画九四六点もの力作を応募いただきました。これは、コンクールの参加についてご指導いただきました学校の先生方をはじめ、ご父兄の皆さん、審査員の先生方、そして山形県ならびに各JAのご支援・ご理解の賜と感謝申し上げます。

このコンクールは、古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきたごはん・お米、稲作農業の大切さと、ごはん食が健康に結びつくことを見直してもらうとともに、食料や農業に対する関心・理解をより一層深めてもらうことを目的として実施しているものです。

今回の皆さんの作品は、ごはん・お米を通じて家族への思いやりを感じたこと、身近な体験を通してごはん食や稲作農業の果たす役割の大きさを知ったこと、また、家族や友達と食べるごはんのおいしさ・うれしさなどを、素直に表現した作品ばかりでした。これからも、素直な心で、日常生活の中にある本当の豊かさに目を向けてください。そして、それらを支えている多くの人たちの苦労や努力を感じ、感謝の気持ちをお忘れなくください。

また、自然を大切にすると、家族を大切にすると、生き物すべ

ての命を大切にすると心を育み、お米のおいしさ、すばらしさをいつまでも忘れないでください。

さて、日本が経済大国といわれるようになって久しいですが、豊かな生活の中で多くの大切なものを失いつつあります。食生活の面からみると食料自給率は四十%で、先進国の中では最低の水準にあります。また、朝食を食べないなど、特に若い世代を中心に食習慣の乱れや栄養バランスの偏りが見受けられ、これらは生活習慣病の増大や、命を軽視した事件の多発化につながり、大きな社会問題とされております。

私たちJAグループは、日本人の主食である米をはじめとして、国内で生産できる食料は国内で生産することを基本に、いつの時代も安全で安心な農畜産物を安定して皆さんに供給できるよう取り組みを進めております。

また、お米を中心とした日本型食生活の推進とともに、「地産地消」や「食農教育」などに積極的に取り組んでおります。特に、小・中学校における、地域農業に関する学習に対しましては、それぞれの地域の特徴を活かしながら、最大限のご支援を申し上げますこととしております。ぜひ地元のJAにお声掛けいただきますようお願い申し上げます。

最後に、皆様のご協力により、このコンクールをますます発展させていただきますようお願い申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。

# 第29回「ごはん・お米とわたし」

## 作文・図画コンクール入賞一覧

### 作文部門

#### ● 1部 (小1年～3年)

山形県知事賞	酒井 惇	天童市立天童中部小学校	1年
山形県農協中央会会長賞	伊藤 浩司	朝日村立朝日小学校	2年
優秀賞	阿部 貴之	櫛引町立櫛引東小学校菟代分校	1年
	齋藤 玲奈	羽黒町立第二小学校	1年
	阿部 咲輝	朝日村立朝日小学校	1年
	佐藤 緑	山形市立桜田小学校	3年
	鈴木菜都美	大石町立亀井田小学校	3年

#### ● 2部 (小4年～6年)

山形県知事賞	渡部 千尋	朝日村立朝日小学校	4年
山形県農協中央会会長賞	石山 芽生	最上町立富沢小学校	5年
優秀賞	上野由里香	朝日村立朝日小学校	4年
	難波 和希	朝日村立朝日小学校	4年
	山木 理央	高畠町立亀岡小学校	5年
	杏澤 真佑	最上町立富沢小学校	5年
	橋本 大来	最上町立赤倉小学校	6年

#### ● 3部 (中1年～3年)

山形県知事賞	長谷川 渚	鶴岡市立鶴岡第三中学校	1年
山形県農協中央会会長賞	大湊 希	米沢市立第一中学校	3年
優秀賞	大浦 沙織	高畠町立第一中学校	1年
	齋藤 那千	朝日村立朝日中学校	2年
	御橋夏津子	鶴岡市立鶴岡第三中学校	2年
	武田 奈緒	鶴岡市立鶴岡第四中学校	3年
	清野 郁	朝日村立朝日中学校	3年

#### ● 学校奨励賞

朝日村立朝日小学校  
鶴岡市立鶴岡第三中学校

### 図画部門

#### ● 1部 (小1年～3年)

山形県知事賞	佐藤 瑞貴	鶴岡市立西郷小学校	3年
山形県農協中央会会長賞	笠原 錬	最上町立富沢小学校	2年
優秀賞	東海林 梨奈	尾花沢市立福原中部小学校	1年
	倉金 卓美	尾花沢市立明德小学校	1年
	柴崎 日向	尾花沢市立尾花沢小学校	1年
	原田 桃香	尾花沢市立常盤小学校	2年
	阿部 風子	尾花沢市立明德小学校	3年

#### ● 2部 (小4年～6年)

山形県知事賞	折原 茉純	尾花沢市立玉野小学校	4年
山形県農協中央会会長賞	難波 沙英	朝日村立朝日小学校	5年
優秀賞	西尾 昂太	尾花沢市立荻袋小学校	4年
	荘司 留加	尾花沢市立名木沢小学校	4年
	齋藤 千佳	朝日村立朝日小学校	6年
	七森 結花	朝日村立朝日小学校	6年
	佐藤 光	温海町立山戸小学校	6年

#### ● 3部 (中1年～3年)

山形県知事賞	高島 絵理	山形市立金井中学校	2年
山形県農協中央会会長賞	小野紗由季	山形市立金井中学校	2年
優秀賞	古関 彰	山形市立金井中学校	2年
	花藤 雄太	山形市立金井中学校	2年
	小玉 愛	上山市立宮川中学校	2年
	古川 千夏	山形市立第九中学校	3年
	板垣 友也	山形市立第九中学校	3年

#### ● 学校奨励賞

朝日村立朝日小学校  
山形市立金井中学校

## 全国審査における入賞者

#### ○ 優秀賞

(作文・1部)	酒井 惇	天童市立天童中部小学校	1年
(作文・2部)	渡部 千尋	朝日村立朝日小学校	4年
(作文・3部)	長谷川 渚	鶴岡市立鶴岡第三中学校	1年

#### ○ 優秀賞

(図画・1部)	佐藤 瑞貴	鶴岡市立西郷小学校	3年
(図画・2部)	折原 茉純	尾花沢市立玉野小学校	4年
(図画・3部)	高島 絵理	山形市立金井中学校	2年

■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「みんなでお米をつくっているんだね」

鶴岡市立西郷小学校三年

佐藤 瑞 貴



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「みんなでいねかり」

最上町立富沢小学校二年

笠原 鍊



■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「おいしいお米ができるといいな」

尾花沢市立玉野小学校四年

折原 茉純



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「草かり機って進まないなあ！」

朝日村立朝日小学校五年

難波 沙英





■全国優秀賞■  
「収穫」  
■山形県知事賞■

山形市立金井中学校二年

高島 絵理



■山形県農業協同組合中央会会長賞■  
「豊作」

山形市立金井中学校二年

小野 紗由季

■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「やっぱりごはんがうまい!!」

天童市立天童中部小学校一年 酒井 惇

「おかあさん、ごはんないの。」

ぼくは、みんなでパンやめんを食べるとき、かならずおかあさんにききます。すると、

「しゅんのごはんは、ちゃんと、とってあるからね。」

と、おかあさんがぼくのために、ごはんをだしてくれま

す。「ああ、よかった、ありがとう。」

と、ぼくは、とてもあんしんします。

ぼくは、パンやめんもたべれるけれど、どうしても、

ごはんがたべたくなくなります。だから、ときどき、おとうさんから、

「おいしいラーメンやにっこうか。」

と、いわれても、ぼくは、

「ごはんがあるところがいいなあ。」

というので、ラーメンもごはんも、どっちでもあるところへ、

でかけるときがあります。

ぼくは、やっぱりごはんがすきなのです。そして、おかわりしたときのごはんは、もっともつとすきです。ほんとうにおいしくて、もりもりたべてしまいます。だから、ぼくのからだは、ちよつとまるくなっています。でも、ごはんのちからで、ぼくはいつもげんきひやくばい

です。いま、サッカーやすいえいを、いっしょうけんめいがんばっています。

このまえは、ぼくがはじめてやる、サッカーのしあいがありました。そのときの、もちものに、「おにぎり」がありました。

「おにぎり、なんこもっていく。」

と、おかあさんからきかれたので、ぼくは、

「三こがいいな。おおきいのね。」

と、たのみました。すると、おいしそうな、おにぎりを

もたせてくれました。ぼくは、サッカーのしあいも、おにぎりも、たのしみになってきました。

しあいは、ざんねんなことに、まけてしまい、くやしいきもちでいっぱいでした。でもおにぎりがおいしくて、うれしかったです。

## ■山形県農業協同組合中央会会長賞■

# 「ぼくのお米子そだて日記」

朝日村立朝日小学校二年 伊藤 浩司

「おはよう。はらへったあ。」

今日も、いいにおいがしてきました。朝のごはんをたいている、あまくて、よだれの出てくるいいにおいです。ぼくのいえで作ったこめだから、とくべつおいしい、っと思うのかもしれない。

「こうじは、こめといっしょの、はる生まれだからのう。」そう。だから、きょうだいみたいにおせわします。大きく、じょうぶにそだつようにつて。

春は、たねまきのじゅんびです。なえばこに、えいようたつぷりの土を入れてたねをまきます。土は、どっしりとこげ茶色で、たねをつつんでくれます。王さまのベツドみたいです。ふかふかで気持ちよさそうだなあ。なえが大きくなると田うえをします。きかいでうえるので、なえばこをはこびます。おもいのなんの、たねのときこ

んなにおもかった？

なつは、草かりです。草かりきでかった草を、はり金のまがつたどうぐであつめます。あつめた後を見ると、きれいになっていて気持ちいいです。はさみで切りたてのぼくの頭みたいだよ。どんどん、大きくなれよ。ぼくのうちでは、水でしようどくもします。ホースをひいて、いねたちにかけるのです。さいしよは、かるくひけるけど、長くなるとだんだんおもくなつてきます。

「こうじ、ちゃんともだよ。」

かたがいたくて地面にうまりそうです。

秋が来ると、ほがこ金色になつてもみもかたくなります。いねかりです。コンバインでしごとをしやすいように、はじっこを手でかります。ザクツザクツと力を入れます。太くてじょうぶにそだつたなあ、つて思います。

かんそうさせて、こめにしあげます。新米は、クリーム色のこめだったのが、ピカピカほつかりのまつ白いごはんになります。今年も早く、新米がとれるといいなあと思います。



■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「ありがとうの気もちをこめて」

朝日村立朝日小学校四年 渡部 千尋

「もつたいたい、もつたいたい。」

お母さんが帰ってきました。お母さんはコンビニエンスストアではたらいっていますが、帰ってくると、よくもつたいたいと口にします。

「何がもつたいたいの。」

「コンビニではしょう味期げんがもう少しさなるど、お弁当やおにぎりを捨ててしまうなんよ。」

お母さんはいつも、まだ食べるのできるお弁当やおにぎりを捨ててしまうのがつらいそうです。

「わたしの大好きなごはんが、毎日捨てられているなんて…。」

わたしもせっかく農家の人が大事に育ててきたお米なのにもつたいたないと、その言葉を聞くたびに思います。しかも、お母さんのお店だけでなく全国のたっくさんのコ

ンビニで捨てられていると思うと、悲しくなります。わたしの家の前に田んぼがあります。春と夏は少し草がありますが、秋はお米が実つて、夕方になるとオレンジ色と金色の間ぐらいの色にかがやいています。とんぼが、その田んぼの上を楽しそうに飛んでいました。わたしはこのこうけいを見ながら、「ごはんたのしみだな」とか「とんぼの田んぼの色がすきなのかな」とか「とんぼもわたしたちと同じでお米がすきなのかな」と思つて見えています。そして、いつのまにかわたしも楽しくなっていました。その時わたしは、人も虫もひきつけるようなきれいなお米つてふしぎなパワーをもっているんだなと思いました。

もう一度、家の前の田んぼのことを思い出すと、農家の人が、朝早くからはたらいていることがあります。田んぼをほりおこしたり、水をひいたり、田植えをしたりします。いねがどんどのびていくと、草かりもがんばっていました。

「暑いのに大へんだなあ。」  
わたしが夏休みでゆつくりしてる時もキーンという草かりきの音がしました。

農家の人たちは、いつもおいしいお米を作るためにがんばっています。だからおいしいのだと思いました。

農家の人があんなにがんばって育てたお米を、やっぱり捨てるのはくやしいです。わたしはテレビで、外国の人たちが、ごはんを食べられなくて、おなかがすいて死んでいくというニュースを見ます。そんな時、もし、毎日捨てられているごはんがあったら、たくさんの方が助かるのになあと思いました。

「わたしたち日本人は、たくさんのごはんを食べられるから幸せだね。」とお母さんが言いました。わたしもそう思いました。だからこそ、食べ物をむだにしないで、いろいろなことにありがとうをいう気持ちを持って食べたいなあと思いました。

わたしは、お米が大好きです。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「おいしいおもち」

最上町立富沢小学校五年 石山 芽生

わたしがまだお母さんのおなかの中にいるころ、もうすぐ生まれると聞いたおじいちゃんとお父さんの弟のけいじおじちゃんがふんぱつして、お七夜のおもちをつく新しいうすを山形まで買いに行ったそうです。うすを買ったお店の店員さんにうすを買うわけを話したら、

「それはいい話だ。」

と言って、木のまな板をおまけにくれたそうです。

そのうすで毎年もちつきをします。今年のおぼんは新庄に住むけいじおじちゃんとおくさんのみえ子さんが来ました。向町の農協で買ってきたもち米を使いました。もち米がたけて待ちに待ったもちつきの始まりです。十分ついたところでわたしもちよつともちをついてみました。でも、きねを持ってみるとズシッと重くて、まちがつてうすのはしをついてしまいました。次にもちをひつく

り返すのをやってみました。ひっくり返すのはもちをつくよりかんたんでした。

もちつきが終わって、みんな台所に行って昼食のじゅんびをしました。おばあちゃんが昼食のもちをものすごい速さでちぎっていました。前にわたしもやってみただけですが、ぜんぜんできませんでした。このもちもちぎり方は、黒沢で代々受けつがれてきたそうで、他の人にはかんたんにできないそうです。昼食のちは、きなこもち、なつとうもち、あんこもちの三種類です。わたしが一番好きなおちは何もつけたりかけたりしない真っ白なおもちです。おばあちゃんは、

「今年のおちは今までのとぜんぜんちがう。」

と言っていました。たしかにそうだと思うほど強い食感をしていました。

わたしはおもちを食べると何だか心があつたかくなるような気がします。お米を作った人の苦労やお米に込めた愛情が伝わってきます。

亡くなったおじいちゃんはおもちがとても大好きでした。特に好きだったのはなつとうもちでした。おじいちゃんは一才か二才の時の妹をおんぶしておもちをついてい

たこともありました。わたしはおもちを食べるたびに亡  
くなつたおじいちゃんのことを思い出します。

おぼんの時にもちをつくのはおじいちゃんでしたが、  
今はお父さんが受けついでいます。お父さんはおもちを  
つく時、いつも力強くついでいます。「おいしくなあれ」  
という気持ちをふきこんでいるように見えます。

今年はとてもおいしいおもちができました。来年もま  
たおいしいおもちを食べたいです。来年はけいじおじ  
ちゃんに赤ちゃんが生まれるので、もっとにぎやかなお  
ぼんのもちつきになりそうです。



■全国優秀賞■ ■山形県知事賞■

「祖父の思い、家族の思い」

鶴岡市立鶴岡第三中学校一年 長谷川 渚

(ああ、まただ：。)

「ガガー」という音が、下から聞こえてきました。私の家では、青果業を営んでいます。それと同時に、玄米を搗く、つまり、精白するという仕事も行っていきます。精米機の音は大きく、長い時は一時間以上続きます。二階で勉強していて、その音が嫌になる時もありました。何となく集中力が欠けていってしまうような気がしていたのです。

我が家は昔、私の祖父が米売買の仕事をしていた関係で、農家から直接仕入れた米を親戚や知り合いに譲る際、白米にしなればすぐに食べることができない、という理由から精米機を購入し、商売としていたのだそうです。又、現在はよくある「コイン精米機」が当時ほとんど設置されていなく、一般の人達が精米するのは困難だった、

というのも購入の理由だと聞きました。米は、祖父が鶴岡市内の農家、遠くは朝日村の奥地や櫛引町から整備されていない砂利道を、米三俵（百八十キログラム）を自転車の荷台につけて、鶴岡まで運んだそうです。当時の自転車は、今とは大分違い弱い為、太いパイプのような物で作られていたそうです。後ろの荷台はとても大きく、そこに三俵全てをつけ、片手で押さえながら、もう一方の手で運転したのだ、と聞きました。それでも祖父は、

「こんなに運んできたんだぞ。」

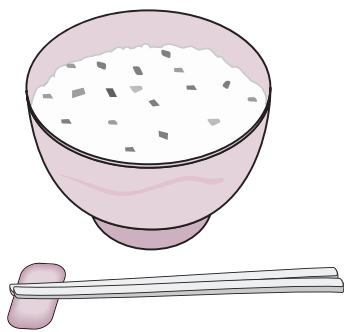
と、逆に自慢をしたのだそうです。今まで感じたことのない距離と重さで、私はとても想像が付きませんでした。しかし、その自慢の中に、すごい辛さがあったに違いありません。

今、当たり前のように食卓にご飯が並んでいるのが、昔だとすごい体力と時間を費やしていたのです。私が、家で精米したてのご飯を食べられるのは、こんな幸せなことだったんだ。あまりにも日常的になりすぎていて、今まで何も感じていませんでした。ただ、唯一思っていたことが、「精米機がうるさい。」ということだったので、「誰に」という訳ではありませんでしたが、とても

申し訳なく思えてきました。昔、たくさんのお苦勞を重ねてきてくれたから、今の私達がある、と思つたら、そんな気持ちになつてきたのです。

現在、我が家では農家から直接米を買つています。その為、農家に米を受け取りに行かなくてはなりません。そしてその米を、父、母、祖母の三人で精米します。ゴミ袋よりも大きく、パンパンに米が入つた袋を車から出し、汗を流しながらの仕事。私も、一度その袋を持つとしたことがあります。とても無理でした。父は精米機から出てきた米を手に取り、じつと見つめていました。そして、ようやく白くなった米を、私達が食べることになるのです。スーパーなどで売られている米は、当然、色々な所を経由している訳なので、白米になりたての米を食べることのできる私は、とても恵まれているのかな、と思いました。それなのに私は、お米の味を何とも思つていないと思います。一粒一粒、農家の方、私の家族のように精米してくれる方、そんな人達の愛情が込もっていることでしょう。私達はその味を、しっかり感じ、受け止めなければいけない、という役目があるのではないか、と思います。

今、米は確実に減つてきています。パンやラーメンなどを食べる人が増えた為です。私も、ラーメンなどは好きなので、反対はできません。しかし、減つていくのを見ていただけでなく、日本の主食である米を、ずっと守り続けていくのも、私達であると思います。精米<sup>ユール</sup>米を白くする。今まで、ずっとこう思つていました。そんな時に、我が家の米の仕事を深く知る機会があつたのです。「私は、何を思つていたんだろう。」恥ずかしかったです。昔より仕事は楽になつたとはいえ、まだまだ体力との勝負。私も将来やるのかなあ、と不安もあります。でも、祖父の大変さ、今、周りにいる家族の思い。これを忘れず、ご飯が食べられる幸せが続けばいいなと思います。



■山形県農業協同組合中央会会長賞■

「私の仕事」

米沢市立第一中学校三年 大湊 希

幼稚園のころ、母がお米を研いでいるのを見て、私もやってみたくて、何度もやらせてちょうだいと頼みましたが、いつももう少し大きくなってからという理由で、さわらせてもらえませんでした。ボウルの中でお米を研ぐ音が、なんだかとても楽しいことをしているように思えて、毎日母がお米を研ぐのを見ていました。

小二になって、やっとお米を研がせてもらえました。自分でカップでお米を量るのも、お米を研ぐのも、水加減も、全部任されたので、それは私にとって家族がおいしいごはんを食べられるかどうかの重大責任になるのですが、それ以上にお米を研ぐことがうれしくて楽しくて毎日ていねいに研ぎました。その結果、家族に希がお米を研ぐようになってから、ごはんがおいしくなったと言われたときは、本当にうれしかったです。

そのころ、我が家ではかまどでごはんを炊いていました。祖母が火加減を見ていてくれたので、そのせいもあってごはんがおいしかったのかもしれない。私が三日坊主にならないように、家族がおだてていたのかもしれない。

それから一年後、祖母が病気になって、かまどの火加減がみられなくなり、炊飯ジャーでごはんを炊くことになりました。

かまどでごはんを炊くときはお釜を使うので水加減のめもりがついていないから、お米にてのひらをつけて、手首のぐりぐりした骨のあたりが、ちょうどいい水加減だと教えてもらいました。これは、母が祖母から教えてもらったことだそうです。だいたいの目分量ということですが、このとおりの水加減でおいしいごはんが炊けていました。

炊飯ジャーには、水加減のめもりがついていたので、その線のとおりに水を水を入れれば、失敗しないでちょうどいい柔らかさのご飯に仕上がります。いちどために手のひらに水を入れたお米の上に入れてみました。確かに水は、手首のぐりぐりした骨のあたりにありまし

た。祖母の長年の経験のすばらしさに驚きました。水加減ひとつで、炊き上がりが硬くなったり、柔らかすぎたりするのにこの水加減がちょうどいいとわかるまでどのくらいかかったのかと思います。もしかしたら祖母も、だれかに教えてもらったのかもしれない。

かまどでごはんを炊いているときは、祖父が、まきを割ったり、祖母が杉の葉を拾ってきたりしていました。幼稚園のころ、近くの神社に遊びに行つて、落ちている杉の葉を拾ってきて、祖母に喜んでもらったことがあります。かまどを使わなくなつてから、二年くらいは台所に置いてありましたが、祖父母の足が弱くなつて、歩くのに邪魔になるから、お風呂場の改装のとき取り外しました。生まれたときからずっとあつたかまどがなくなつたのは、ちよつとさびしいような気がしました。でも、少しの間だけだけれど、私が研いだお米を、祖母がかまどで炊いて、家族みんなで食べることができてうれしかったです。貴重な体験ができたと思います。

お米を研ぐのは、いまでも私の担当です。具合が悪いときや、遠征などで家にいないとき以外は毎日お米を研いでいます。あのとき、楽しそうに聞こえたお米を研ぐ

音や、カップで量つてボウルに入れる音を毎日自分で聞いています。ごはんを炊くという毎日の仕事を、祖母と母からバトンタッチしてもらつて、ときどきはめんどうだと思つてしまうことがあります。いまでも充分に楽しんでやっています。





# 作文部門審査講評

山形市立東小学校教諭 三浦 照子

第二十九回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール作文部門には、県内小中学校より五八校、三三六作品の応募がありました。全国審査では、三点が優秀賞を受賞しました。おめでとうございます。

今年度は、『災』が世相を表す一文字に選ばれたように、多くの自然災害があり、応募された作品の中にも収穫を心配するものがみられました。「米作り（食生活）」と自然との関わり」を改めて実感した作品です。

審査を通して思ったことは、思いがけない出来事、貴重な体験、人とのすばらしい出会いなど、タイミングを逃さず、自分の言葉で書くことの大切さです。書きながら、自分の考えがはつきりし、疑問がわき、今まで気づかなかったことも見えてきます。優秀作品に選ばれた作品は、このような生活をする中から生まれたのでしょうか。では、県審査の結果と作品の紹介をします。

## 第一部（小学校一年生から三年生）

○「やっぱりごはんがうまい!!」（天童市立天童中部小学校一年・酒井惇・県知事賞）は、大すきなごはんにテーマをしぼって書いてあるので、「ぼくは、やっぱりごはんがすきなです」という文章が生きてきます。「おかあさん、ごはんないの?」という出だしもいいですね。「」の文がところどころにあり、作文を生き生きしたものにしています。文章の組み立ても三つにまとめ実にうまいと思います。楽しい作文です。

○「ぼくのお米そだて日記」（朝日村立朝日小学校二年・伊藤浩司・県農協中央会長賞）は、題名の通り、ぼくができるところを手伝いしている様子がとても新鮮です。また「春はく」「なつはく」「秋がくるとく」など季節ごとの文章構成もいいですね。「おもいのなんの、たねのときはこんなに重かった?」「はり金のまがつた道具」「ぼくのあたまみたい」など様子を例えを使って表現しているのもおもしろいし、言いたいことが伝わってきます。

## 第二部（小学校四年生から六年生）

○「ありがたいの気持ちもこめて」（朝日村立朝日小学校四年・渡部千尋・県知事賞）は、コンビニで売れ残った弁当が捨てられていく悲しさと食べ物大切にしていきたいという作者のおもいが素直な言葉で表現されています。農家の人がいっしょうけんめい米作りをしている様子から、作者が米を大切にしていきたいという気持ちが強く伝わってくる作品です。

○「おいしいおもち」（最上町立富沢小学校五年・石山芽生・県農協中央会長賞）は、自分が生まれてくることを喜んで、祖父とおじが買ってきた「うす」にまつわるお話と、現在も大切にその「うす」を使っているという内容から、家族の温かさが伝わってくる作品です。おもちをつくことで、お米を作った人の苦勞を思い、亡くなった祖父を想う気持ちが上手に表現されています。

## 第三部（中学校一年生から三年生）

○「祖父の思い、家族の思い」（鶴岡市立鶴岡第三中学校一年・長谷川渚・県知事賞）は、祖父の時代から、農家から米を買って、精米にして消費者に売る仕事を行ってきた長谷川家。渚さんは、手伝いを通して、その大変さを体験し、一粒のお米に寄せる人々の労働と思いの重さを痛感した。それから、食物に関わる苦勞をしっかりと受けとめると、自ずと「感謝」と「幸せ」の情が湧き出た。そうした、気持ちの変化が素直に書き進められている。

○「私の仕事」（米沢市立第一中学校三年・大湊希・県農協中央会長賞）は、祖母の長年の経験のすばらしさ、かまどで炊いたごはんのうまさを実感できるのは、幼稚園の頃からお米研ぎに興味をもち、小学二年生のときやつと任せてもらえた喜びを知っているから。水加減まで任せられ、今でも毎日家族のごはんを炊いている筆者だからこそ書ける文章です。

県学校奨励賞は、朝日村立朝日小学校と鶴岡市立鶴岡第三中学校が受賞しました。おめでとうございます。

新潟県中越大地震の時、山形県内のJAから約四万個ものおにぎりが届けられたというニュースがありました。おにぎりを通して、被災者のみなさんがほんの少しでも「希望」をもってくれたら幸いです。

児童のどの作品からも「喜び」「感謝」「希望」という三つのキーワードを見つけることができました。あつて当たり前になっている「お米とごはん」は、なくてはならないものであり、食生活や人との関わりに潤いをもたらしていることに気づいています。「天国からの贈り物」と表現している作品もありました。

米作りは日本の歴史の始まりです。「ごはん・お米」を切り口に、日本の文化や自分の生き方について考え、さらには「世界の山形・米」について自分の夢を見つけてほしいと思います。来年度も個性豊かな、より多くの作品が寄せられることを願っております。

# 評 講 査 審 門 部 画 図

修

田 相

山形市立高楯中学校校長

第二十九回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール図画部門には、県内一〇〇校より九四六点の作品応募がありました。残念ながら昨年より応募点数が減ってしまいました。その中から優れた作品を選び出す県審査を行いましたので結果を紹介します。

## 第一部（小学校一年生から三年生）

○「みんなでお米をつくっているんだね」（鶴岡市立西郷小学校三年・佐藤瑞貴・県知事賞）は、大切に育ててきた苗箱をみんなで協力して運び出している様子が実にほのぼのと表現されています。画面全体の構図の据え方が的確で仕事の流れが想像できる大変楽しい作品に仕上がりました。人物の重なりや全体の色づかいが特徴的で印象深い作品です。

○「みんなでいねかり」（最上町立富沢小学校二年・笠原錬・県農協中央会会長賞）は、家族の人総出での収穫の様子が生き生きと表現されています。黄金色の稲を刈り取る真っ赤なコンバインと大きなトラックが画面を大胆に区切り、さらに手前に働く多くの人たちが加わって力強い作品となりました。家族の収穫の喜びが全体から伝わってきます。

## 第二部（小学校四年生から六年生）

○「おいしいお米ができるといいな」（尾花沢市立玉野小学校四年・折原茉純・県知事賞）は、田植えの様子を喜びに表しています。学校の学習で田植えをしたのでしょうか。みんなが泥だらけになりながら、一生懸命苗を植えている様子が生き生きと描かれています。周りの子供たちの楽しげな声が聞こえてきそうです。秋においしいお米が実ることをほんとうに楽しみにしている気持ちが伝わってきます。中心に描かれている女の子は自分なのでしょうか。一番初めにそこに視線がいき、その後周りの友達に視線が自然にいく構図にできあがっています。

○「草かり機って進まないなあ！」（朝日村立朝日小学校五年・難波

沙英・県農協中央会会長賞）は、木版画で、草刈の様子を描いています。白と黒のバランスがとれて、田んぼで草刈をする子供の様子が生き生きと表現されています。昔使った草刈り機を使った体験が強い印象になって残っているのでしょうか。その印象が構図の工夫を生み、表現を深いものになっています。中心の二人が力強く機械を押しながらか進んでいる様子が伝わってきます。彫りによって田んぼの広がりやうまく出ている作品です。

## 第三部（中学校一年生から三年生）

○「収穫」（山形市立金井中学校二年・高島絵理・県知事賞）は、立派に実った我が家の田んぼ。それらをていねいに刈り取るおじいさんの後ろ姿がとても輝いて見えます。向こうのおばあさんは一休みですね。広々とした田んぼの遠近感と稲の色調を鋭い観察力で描いています。画面からは温かみのある優しい雰囲気伝わってきます。○「豊作」（山形市立金井中学校二年・小野紗由季・県農協中央会会長賞）は、稲刈りの実習を行っている友だちの嬉しそうな表情がさわやかに描かれています。慣れない作業にアドバイスし合っているのでしょうか。束ねる両手にも力が入ります。稲穂と二人の構図がとてもおもしろく、細部まで心を込めて描いています。

県学校奨励賞は、朝日村立朝日小学校と昨年に引き続き山形市立金井中学校が受賞しました。おめでとうございます。

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの図画部門の作品の特徴は、自然や家庭の中で児童生徒や家族などの人々が生き生きと活動している場面がほとんどであるという点です。そこに描かれている人々は表情豊かで、ほのぼのとした温かい雰囲気があふれています。実際に体験し、自ら感じ取ったことをもとに工夫して表現できるという点で、本コンクールは優れた題材といえます。一人ひとりが他の人と違う個性的な表現を目指せるような、そんな指導がなされることをさらに期待したいものです。

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 第18回〜第29回 入賞一覧

作文部門 図画部門

第23回	第22回	第21回	第20回	第19回	第18回
<p>●<b>県知事賞</b> 本間 明音(鶴岡市) 渡部 大地(朝日村) 有賀真紀子(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 黒坂 雄志(最上町) 竹田実穂子(米沢市) 斎藤芽衣子(朝日村)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 結城 智裕(最上町) 岸 詩音(最上町) 高橋 隆浩(高畠町) 稲葉 彬(天童市) 近野健三郎(高畠町) 阿部 晴美(最上町) 小野寺美夏(朝日村) 大谷部沙李(飯豊町) 原田 久美(最上町) 田中絵理加(最上町) 結城 重則(東根市) 高橋 愛実(山形市) 佐藤 牧(朝日村) 原田 智広(高畠町) 本木いずみ(東根市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 三浦 春菜(鶴岡市) 黒坂 星児(最上町) 萩原菜々美(高畠町)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 大石 美恵(最上町) 菅 喜美広(最上町) 森谷さとと(天童市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 裕子(尾花沢市) 菅原 南(鶴岡市) 高橋 隆浩(高畠町) 加藤 梓(鶴岡市) 藤畑 康宏(最上町) 佐藤 秀樹(最上町) 奥山 恵里(最上町) 石山 崇人(最上町) 阿部 留佳(朝日町) 菅 晃菜(最上町) 島津 智子(高畠町) 佐藤真寿美(高畠町) 阿部 哲(南陽市) 伊藤 千尋(朝日村) 小川 結(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 鶴岡市立斎小学校 高畠町立第一中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 加藤 梓(鶴岡市) 加賀 知世(尾花沢市) 村山 直美(天童市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 橋本 菜穂(最上町) 原田 久美(最上町) 小座間裕子(天童市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 岸 健一朗(最上町) 山田 寿広(最上町) 大石 美恵(最上町) 後藤 明美(高畠町) 近野 健二(高畠町) 大場 哲也(最上町) 石山 雄洋(最上町) 石山満理奈(最上町) 佐藤 康徳(米沢市) 斎藤真貴子(朝日村) 氏居 生良(山形市) 前田 恵美(山形市) 中嶋 桃子(山形市) 原田 優子(天童市) 五十嵐小夜子(天童市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 高畠町立屋代小学校 天童市立第二中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 鈴木 裕美(高畠町) 堀 文子(酒田市) 高梨 邦弘(高畠町)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 小松 主音(高畠町) 柴田 育恵(大石町) 後藤 友岐(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 佐藤 駿佑(米沢市) 吉田 洋平(高畠町) 矢口 渡(鮭川村) 大場 智美(最上町) 奥山 恵里(最上町) 鈴木まりこ(山形市) 小山田由起子(河北町) 菅 晃太(最上町) 佐藤 舞子(米沢市) 伊藤理恵子(米沢市) 阿川 麻里(山形市) 東海林 宏(山形市) 中鉢 佳奈(天童市) 佐藤 紘子(朝日村) 清野 美幸(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 高畠町立和田小学校 天童市立第二中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 加藤 映(鶴岡市) 菅 晃太(最上町) 後藤 友岐(米沢市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 奥山 恵里(最上町) 有川 聡美(村山市) 柿崎 真吾(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 赤松かおり(最上町) 佐藤 夏佳(最上町) 岩瀬 直紀(高畠町) 菅原美由紀(米沢市) 阿部 達也(立川町) 安達 聖澄(山形市) 青山 光(山形市) 奥山 佳希(最上町) 佐藤 一貴(立川町) 荒木 恵(鮭川村) 土屋 秀憲(山形市) 高橋 祐也(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立富沢小学校 山形大学教育学部附属中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 佐々木歩惟(最上町) 有川 聡美(村山市) 森 直子(鶴岡市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 萩原 晴菜(高畠町) 須貝 尚之(最上町) 後藤 友岐(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 情野 亮(米沢市) 柴田いくえ(大石町) 石山 雄洋(最上町) 後藤 卓也(最上町) 曾田 健(山形市) 菅 晃太(最上町) 庄司早也香(最上町) 二戸奈央子(最上町) 渋谷 昌宏(立川町) 五十嵐江利(朝日村) 今野小百合(米沢市) 鈴木 一恵(米沢市) 土肥 由実(米沢市) 小座間恵美(天童市) 田中 文(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立向町小学校 鶴岡市立鶴岡第四中学校</p>
<p>●<b>県知事賞</b> 五十嵐祐大(鶴岡市) 菅野 瞳(尾花沢市) 武田 彩子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 西塚 眞治(尾花沢市) 今野 里紗(鶴岡市) 長尾 藍(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 小林 由典(白鷹町) 落合 和也(尾花沢市) 木村 和人(鶴岡市) 佐藤 綾子(尾花沢市) 本間 翔太(尾花沢市) 高橋 茉莉(最上町) 大山 美幸(尾花沢市) 赤松かおり(最上町) 工藤 竜也(尾花沢市) 佐藤 伸也(新庄市) 鈴木 裕子(山形市) 友寄 歩惟(上市市) 庄司美智子(上市市) 遠藤真理子(山形市) 遠藤由紀子(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 鶴岡市立栄小学校 上市市立北中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 本間 裕紀(尾花沢市) 飛渡 沙織(大石町) 菊池 佳子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 遠藤 美佳(尾花沢市) 渡部 達(朝日村) 佐藤 瑠子(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 伊藤 由貴(尾花沢市) 渡部みなみ(高畠町) 荒木 渚(鮭川村) 横山 浩輔(尾花沢市) 高橋 真美(最上町) 北條 隆大(最上町) 星川 瑠美(尾花沢市) 小野 貴紀(尾花沢市) 高橋 梨絵(最上町) 庄司 修(最上町) 溝越 清美(山形市) 公平 央恵(米沢市) 小野 展裕(山形市) 武田 彩子(山形市) 吉田由紀子(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立玉野小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 渡邊 克也(最上町) 有路 沙織(尾花沢市) 菊池 佳子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 大山 和(尾花沢市) 高橋 雄太(尾花沢市) 會田 恵里(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 須藤 賢東(山形市) 古瀬 友香(尾花沢市) 伊藤 敏彦(尾花沢市) 岡野 浩美(最上町) 加地華南子(高畠町) 花輪みゆき(天童市) 笹原可奈子(尾花沢市) 五十嵐隆介(尾花沢市) 古瀬智佳子(尾花沢市) 武田ゆかり(尾花沢市) 高橋 栄(山形市) 栗原 美穂(山形市) 阿部 誠司(山形市) 丹 奈帆子(山形市) 寺崎 久世(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立常盤小学校 山形市立第五中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 大瓶 祐美(尾花沢市) 白井 靖浩(尾花沢市) 斎藤 明子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 深瀬 美幸(高畠町) 岩松 泉(山形市) 有路 奈央(大石町)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 森谷 雄太(山形市) 長岡 希(山形市) 小林 龍宏(尾花沢市) 土屋 引一(南陽市) 工藤 誠昭(朝日村) 齋藤 啓(大石町) 加藤 初恵(尾花沢市) 奥山 和泉(尾花沢市) 岡野 咲子(最上町) 渡部 禎子(南陽市) 原田 沙樹(山形市) 池野まり子(山形市) 入間 利恵(高畠町) 青柳みちよ(高畠町) 阿部 陽一(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立向町小学校 山形市立第四中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 伊藤 桃子(尾花沢市) 高橋 裕(最上町) 竹俣 太郎(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 樋口 裕斗(最上町) 高橋 一輝(尾花沢市) 武田由美子(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 荒澤 雄太(山形市) 加藤 浩太(尾花沢市) 向田絵梨子(白鷹町) 白旗 典大(鶴岡市) 安野 妙子(鶴岡市) 大石 圭美(天童市) 長南 清香(朝日村) 鈴木 洋子(尾花沢市) 鈴木 雄太(尾花沢市) 島津 展子(高畠町) 松田多恵子(山形市) 佐藤ひとみ(山形市) 奥山 舞(河北町) 奥山 佳子(河北町) 菅原 陽子(大石町)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立向町小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 堀内 智幸(高畠町) 瀬川 裕(尾花沢市) 有路 奈央(大石町)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 伊藤 幸則(尾花沢市) 井上 夏美(大石町) 岡崎 沙織(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 高橋 悠輝(尾花沢市) 高橋 惇二(寒河江市) 五十嵐政則(高畠町) 高橋 生耶(高畠町) 柳元 穰(尾花沢市) 高橋 祐樹(尾花沢市) 鈴木奈緒美(尾花沢市) 西塚 孝也(尾花沢市) 野口 聡子(東根市) 高橋 一輝(尾花沢市) 遠藤 美代(山形市) 柏倉 友美(山形市) 松田多恵子(山形市) 樋口 康子(白鷹町) 森 秀人(大石町)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立尾花沢小学校 山形市立第四中学校</p>

第29回	第28回	第27回	第26回	第25回	第24回
<p>●<b>県知事賞</b> 酒井 惇(天童市) 渡部 千尋(朝日村) 長谷川 渚(鶴岡市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 伊藤 浩司(朝日村) 石山 芽生(最上町) 大湊 希(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 貴之(樺引町) 齋藤 玲奈(羽黒町) 阿部 咲輝(朝日村) 佐藤 緑(山形市) 鈴木菜都美(大石田町) 上野由香里(朝日村) 難波 和希(朝日村) 山木 理央(高島町) 香澤 真佑(最上町) 橋本 大来(最上町) 大浦 沙織(高島町) 齋藤 那千(朝日村) 御橋夏津子(鶴岡市) 武田 奈緒(鶴岡市) 清野 郁(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 朝日村立朝日小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 平 理紗子(高島町) 石山 涼(最上町) 渡部 沙紀(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 奥山 雅生(最上町) 守岡 雄朗(鶴岡市) 工藤 瑞穂(東根市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 石山 加奈(最上町) 菅 風沙(最上町) 伊藤 匠平(最上町) 渋谷 生帆(鶴岡市) 清野 真希(鶴岡市) 今井 大輔(鶴岡市) 菅井美香子(村山市) 五十嵐由香(鶴岡市) 大池 響子(米沢市) 阿達 大和(最上町) 稲垣菜里香(長井市) 土方 花重(鶴岡市) 南齋 宏駿(米沢市) 貝田 理沙(山形市) 宮崎加奈子(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立富沢小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 伊藤佐久磨(朝日村) 小野寺寛貴(鶴岡市) 菅原 香織(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 伊藤 睦美(朝日村) 本間 稚菜(鶴岡市) 安孫子 郁(天童市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 二宮明日香(高島町) 阿部亜紗子(最上町) 大貫 秀平(最上町) 清野 史拓(朝日村) 佐藤 拓夢(鶴岡市) 岸 はづき(最上町) 渋井 彩希(山形市) 二戸 浩太(最上町) 阿部 貴敏(最上町) 秋野 寛斎(鶴岡市) 松田 恵(南陽市) 川崎 成也(南陽市) 清野 郁(朝日村) 中里恵里香(朝日村) 難波 和宏(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 朝日村立朝日小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 今井 大輔(鶴岡市) 佐藤 世和(米沢市) 小野寺千賀(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 水谷ひらり(山形市) 結城 智裕(最上町) 渡辺真理子(高島町)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 小野寺陽奈(朝日村) 大場たくや(最上町) 鈴木 玲奈(高島町) 後藤なつみ(高島町) 志藤 貴俊(三川町) 大場 麻由(最上町) 大場 剛(最上町) 和田真由子(鶴岡市) 石山 樹里(朝日村) 清野 郁(朝日村) 佐藤 和磨(山形市) 清野 優(朝日村) 清野 舞(朝日村) 遠藤 晃毅(朝日村) 井上 寛子(天童市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 岸 詩音(最上町) 難波 裕人(鶴岡市) 佐藤 望(天童市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 森 麻美(樺引町) 佐藤 香織(山形市) 清野 舞(朝日村)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 今井 大輔(鶴岡市) 三浦 幸希(鶴岡市) 酒井 健太(山形市) 佐藤 大輝(鶴岡市) 佐藤真生子(最上町) 齋藤 那千(朝日村) 阿部 貴敏(最上町) 小野 翔(米沢市) 安達 美有(朝日村) 佐藤 若佳(最上町) 菅原 香織(朝日村) 大滝まど佳(朝日村) 菅原 泰隆(鶴岡市) 荒井 郁(山形市) 小林千恵子(鶴岡市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立赤倉小学校 鶴岡市立鶴岡第三中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 阿部 将敏(最上町) 橋本 菜徳(最上町) 伊藤 明希(朝日村)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 渡邊 雅正(酒田市) 阿部 奈美(鶴岡市) 斎藤芽衣子(朝日村)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 白幡 梓(鶴岡市) 丸山 里佳(樺引町) 田中 麻衣(山形市) 斎藤 陽一(山形市) 高橋 真莉(最上町) 渡辺 大(南陽市) 加藤 梓(鶴岡市) 押切 成美(最上町) 安達 千李(三川町) 古川 悠(高島町) 遠藤 俊一(天童市) 清野 舞(朝日村) 菅原 千秋(樺引町) 瀧口 夏子(天童市) 庄司 千鶴(朝日村)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 最上町立赤倉小学校 朝日村立朝日中学校</p>
<p>●<b>県知事賞</b> 佐藤 瑞貴(鶴岡市) 折原 菜純(尾花沢市) 高島 絵理(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 笠原 鍊(最上町) 難波 沙英(朝日村) 小野紗由季(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 東海林梨奈(尾花沢市) 倉金 卓美(尾花沢市) 柴崎 日向(尾花沢市) 原田 桃香(尾花沢市) 阿部 風子(尾花沢市) 西尾 昂太(尾花沢市) 荘司 留加(尾花沢市) 齋藤 千佳(朝日村) 七森 結花(朝日村) 佐藤 光(温海町) 古関 彰(山形市) 花菱 雄太(山形市) 小玉 愛(上山市) 古川 千夏(山形市) 板垣 友也(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 笹原 瑞紀(尾花沢市) 乙坂ひかり(温海町) 高島 絵理(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 蛸井 葉月(鶴岡市) 難波 紗矢(朝日村) 板垣 友也(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 翼(最上町) 高野 陽希(最上町) 木村さえり(鶴岡市) 高橋 龍星(大石田町) 本間 円(尾花沢市) 佐藤真理絵(温海町) 小内 将弘(尾花沢市) 鈴木 結(藤島町) 國分 雅哉(尾花沢市) 須田 琳子(鶴岡市) 日下部まどか(山形市) 設楽なつみ(山形市) 清野 美香(山形市) 伊藤 歩(山形市) 吉田真優美(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 温海町立温海小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 荘司 留加(尾花沢市) 伊藤 祐太(尾花沢市) 村上 美紀(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 阿部 行成(鶴岡市) 須田 雄飛(鶴岡市) 武田亜沙美(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 庄司 栞菜(尾花沢市) 村岡 孝一(尾花沢市) 有路 杏子(尾花沢市) 渡部 香菜(朝日村) 佐藤 史彬(高島町) 渡辺 大平(尾花沢市) 菅野 慎也(尾花沢市) 有路 里香(尾花沢市) 古瀬 裕真(尾花沢市) 阿部 貴文(鶴岡市) 古川 知美(山形市) 須貝 恵美(山形市) 高島 香織(山形市) 椎名 俊一(山形市) 鈴木 聖美(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 尾花沢市立常盤小学校 山形市立第三中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 清野 史拓(朝日村) 小林 由佳(山形市) 高島 香織(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 武田 翼(尾花沢市) 須田 雄飛(鶴岡市) 小松 恵梨(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 奨平(尾花沢市) 佐藤 奨啓(寒河江市) 国分 健太(尾花沢市) 工藤 大周(西川町) 佐藤 秀太(寒河江市) 五十嵐 隼(朝日村) 土屋 趙史(尾花沢市) 安達 美咲(高島町) 倉金 侑香(尾花沢市) 永沢 都(尾花沢市) 田村 里奈(山形市) 村上 美紀(山形市) 須貝 恵美(山形市) 本田 裕子(山形市) 長岡亜由美(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 朝日村立朝日小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 半田さやか(山形市) 菅野 慎也(尾花沢市) 長嵩 絵理(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 菅 友絵(最上町) 小野麻里子(尾花沢市) 齋藤 利恵(米沢市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 阿部 凌(寒河江市) 岸 英里香(最上町) 小林 育実(最上町) 佐藤 拓実(鶴岡市) 丹野 泰長(山形市) 須田 雄飛(鶴岡市) 片岡 勇人(最上町) 佐藤かおり(山辺町) 大久保 康(藤島町) 福田紗矢佳(最上町) 高島 香織(山形市) 鈴木 綾(米沢市) 小野友加奈(山形市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 山形市立南山形小学校 山形市立金井中学校</p>	<p>●<b>県知事賞</b> 熊谷 朋美(尾花沢市) 渡辺 麻美(尾花沢市) 佐藤 瑠子(山形市)</p> <p>●<b>県中央会会長賞</b> 須田 雄飛(鶴岡市) 鈴木 愛香(寒河江市) 長岡 和美(山形市)</p> <p>●<b>優秀賞</b> 原田 初美(尾花沢市) 吉田 龍一(大石田町) 結城 弘斗(最上町) 佐藤 成美(尾花沢市) 船山 達郎(白鷹町) 土屋 範晃(尾花沢市) 五十嵐祐大(鶴岡市) 村井 法子(尾花沢市) 西尾 円華(尾花沢市) 岸 貴大(尾花沢市) 矢口 亜紀(山形市) 鈴木 庸(上山市) 鈴木 裕子(山形市) 西村 愛子(山形市) 青柳 悠香(天童市)</p> <p>●<b>学校奨励賞</b> 寒河江市立寒河江中部小学校 山形市立金井中学校</p>

## 第29回「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール審査経過の概要

### ■応募数

作文：336点  
 図画：946点                      合計 1,282点

区分	第1部	第2部	第3部	計
作文部門	50点	157点	129点	336点
図画部門	449点	468点	29点	946点

### ■審査

- (1) 県予選審査期日（各部門開催）  
 平成16年10月7日(木) 図画部門  
 平成16年10月25日(月) 作文部門
- (2) 全国コンクールの結果  
 優秀賞に作文部門で3名、図画部門で3名が  
 が受賞。
- (3) 県審査会期日（作文・図画部門合同で開催）  
 平成17年1月20日(木)

### (4) 入賞作品数

山形県知事賞 作文3点、図画3点  
 山形県農業協同組合中央会会長賞 作文3点、図画3点  
 優秀賞 作文15点、図画15点  
 学校奨励賞 作文2校、図画2校

### ■審査員

作文部門：三浦 照子(山形市立東小学校教諭)  
 向田 志津(山形市立鈴川小学校教諭)  
 三條久美子(上山市立中川小学校教諭)  
 伊藤恵美子(山形市立第三中学校教諭)  
 岡崎 悦子(山形市立第九中学校教諭)

図画部門：相田 修(山形市立高楯中学校校長)  
 張崎 正裕(山形市立第十小学校教諭)  
 洪間 靖(山辺町立中中学校教諭)  
 山内 隆之(山形県教育庁義務教育課指導主事)

### ■表彰式

平成17年2月5日(土)  
 山形市「山形グランドホテル」

年度	部門	第1部	第2部	第3部	合計
H.3 (第16回)	作文 図画	253 1,031	402 878	104 43	759 1,952
4 (第17回)	作文 図画	212 982	350 767	135 32	697 1,781
5 (第18回)	作文 図画	210 1,276	359 964	217 54	786 2,294
6 (第19回)	作文 図画	167 1,164	330 820	179 53	676 2,037
7 (第20回)	作文 図画	220 781	300 647	138 23	658 1,451
8 (第21回)	作文 図画	201 639	337 507	152 66	690 1,212
9 (第22回)	作文 図画	63 643	229 461	69 40	361 1,144
10 (第23回)	作文 図画	75 907	137 594	117 47	329 1,548
11 (第24回)	作文 図画	108 869	195 450	108 26	411 1,345
12 (第25回)	作文 図画	65 495	122 311	112 9	299 815
13 (第26回)	作文 図画	45 731	143 408	91 16	279 1,155
14 (第27回)	作文 図画	91 688	98 417	132 23	321 1,128
15 (第28回)	作文 図画	87 771	82 589	189 30	358 1,390
16 (第29回)	作文 図画	50 449	157 468	129 29	336 946

# ●第29回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール募集要領●

## 1. 趣 旨

このコンクールは、ごはん食や稲作など古くから日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般と、ごはん食が健康に結びつくことを見直してもらうとともに、次世代の子供たちに稲作農業が果たす多面的な働きとごはん食の重要性、人々とのコミュニケーション作りをはかるために実施します。

また、全国段階のコンクールと並行し、同一趣旨で実施します。

## 2. 「作文・図画の課題」「応募資格」

### 「応募規格（枚数・大きさ）」「応募規則」

全国段階の募集要領を適用します。

(注) 応募作品は返却いたしません。また、作品の著作権は山形県農業協同組合中央会に属します。

### 【課題】(作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでのおいしかったことや家族とのコミュニケーション、さらにお米に関しての思い出や考えたことなどを素直な気持ちで自由に表現して下さい。

### 【応募資格】

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。なお、盲学校、聾学校および養護学校の小学部、中学部も上記の小学校、中学校に準ずるものとします。

### 【応募規格】(枚数・大きさ)

#### ●作文部門

- 1部 小学校1年生～3年生  
(400字詰市販原稿用紙2枚以内)
- 2部 小学校4年生～6年生  
(400字詰市販原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生  
(400字詰市販原稿用紙4枚以内)

#### ●図画部門

- 1部 小学校1年生～3年生
  - 2部 小学校4年生～6年生
  - 3部 中学校1年生～3年生
- B3判(36.4センチ×51.5センチ)相当の市販画用紙を使用。画材はとくに制限しません。

※地域によって多少サイズは異なります。

### 【応募規則】

- 課題にそった作品を対象とします。
- 他のコンテストに応募していない作品に限ります。
- ひとりで1部門に2点以上は応募できません。
- 図画作品でポスター形式(標語・キャッチフレーズ文字の入ったもの)のものは応募できません。
- 学校で応募の際は、別添の応募者明細表を必ず添付してください。
- 作品には、1点ごとにつぎの事項を記入した応募票をつけてください。(下に見本)つける位置は最後のページの裏面、図画は裏面中央とします。

- ①作品の題名 ④学校所在地(郵便番号・電話番号)
- ②氏名・性別 ⑤本人住所(郵便番号・電話番号)
- ③学校名・学年・組 ⑥J A名(農協名)

## 3. 締切日

平成16年9月30日(木)(必着)

## 4. 入賞発表

全国発表 平成16年12月上旬  
本県発表 平成17年1月下旬

## 5. 賞

全国審査の全国表彰のほか、本県審査により次の表彰を行います。

### ●山形県知事賞

両部門各部ごとに1名 計6名  
(賞状と山形県農業協同組合中央会から1万円相当の図書券)

### ●山形県農業協同組合中央会会長賞

両部門各部ごとに1名 計6名  
(賞状と山形県農業協同組合中央会から5千円相当の図書券)

### ●優秀賞

両部門各部ごとに5名 計30名  
(賞状と山形県農業協同組合中央会から3千円相当の図書券)

### ●学校奨励賞

両部門ごとに2校 計4校  
(賞状と山形県農業協同組合中央会から2万円相当の図書券)

## 6. 審査員

県教育庁、小・中学校教諭、J A山形中央会

## 7. 応募先

- (1) 県内の各J Aを受付窓口とします。
- (2) 県段階は次に問い合わせください。

〒990-0042

山形市七日町三丁目1-16

山形県農業協同組合中央会

(J A山形中央会)

農業・教育総括部

農業・農政チーム

「作文・図画募集」係

TEL 023-634-8114

FAX 023-633-1754

## 8. 全国段階との関連

- (1) 県段階で予備審査を行い、各部門ごと数点を全国に推薦します。
- (2) 全国審査終了後、全国から返送された作品を含め、本県の本審査を行い、県段階の優秀作品を決定します。

作品の課題		
ふりがな氏名	-----	性別 男・女
ふりがな学校名	立 学校	年 組
ふりがな学校所在地	〒 TEL	
ふりがな本人住所	〒 TEL	
J A名 (農協名)		

(注) 太い線で囲んだ部分は必ず記入して下さい。ふりがなも必ず記入して下さい。

